

1. 教科名：芸術 科目名：美術1
2. 履修学年：1年（芸術必修選択）
3. 単位数：2単位
4. 使用教科書：日本文教出版 高校生の美術1
5. 目標

芸術の幅広い創造活動をとおして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。
  - (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
  - (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育てる。
6. 授業内容及び授業形態
    - (1) 美術の基礎的な歴史を習得してもらうため、授業始めに15分程、古代から現代までの西洋美術史を学習し、美術と歴史について考える機会を持つ、
    - (2) 美術1では素描とデザインなどの平面作品と立体造形、様々な課題を行う。いろいろな素材や題材に触れることで、様々な表現法を学び、創造的な発想や構想力を高めていく。
    - (3) 制作した作品を校内で展示し、発表する機会を持つ。お互いの作品を鑑賞することにより、自己にはない他者の良さや違いを発見し多様性を認め視野を広げる。そして、自己の表現に活かしたり、美的感性を高めたりすることにつなげる。
    - (4) 夏休みの課題として、読書感想画、ポスター、写真の中から一つ選び制作する。作品はコンクールへ出品する。

#### 7. 評価の方法

(1) 観点別評価とする。「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点とし、それぞれ1：1：1の比率で行う。

- ① 十分満足できる：A=65～100
- ② おおむね満足できる：B=35～64
- ③ 努力を要する：C=0～34

#### (2) 評価の観点

- ① 知識技能：対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
- ② 指向・判断・表現：造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度：主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

#### 8. その他教科担当より

美術の授業は単に絵の技術を上達させる授業ではありません。造形活動や鑑賞活動をとおして様々な視点や構想力、創造力や美意識、感性を高める目的があります。それらの能力は様々な分野に波及し力の一助となるものです。将来は自己実現へ向けて未来を切り開く人材になって欲しいと思います。